

第3次西和賀町総合計画基本構想・前期基本計画（案）に係るパブリックコメントの実施結果

- 1 募集期間 令和8年2月1日（日）から令和8年2月15日（日）
 2 受付意見数 16件（5人）
 3 反映区分
 A：計画等に取り込むもの 4件
 B：計画等に盛り込み済みのもの 1件
 C：計画等に盛り込まないもの 9件
 D：その他、要望・意見・感想等 2件

4 意見の要旨と町の考え方

No	該当箇所（頁）	意見の要旨	町の考え方	反映区分
1	見開きの図解	<p>①一目でわかる図解を付けたことは評価します。</p> <p>②重点戦略1、3は基幹産業である農林業の振興があつてこそだと思います。「・」の内容で農林業の振興をきちんとうたって、農林業に携わる人を元気づけてください。</p> <p>③重点戦略2、まちの将来像の「学びが拓く」が西和賀高校なのはどう考えてもしくくりきません。西和賀高校はもちろん大事で今後も継続していけるよう力を入れてほしいですが、保育所・小学校・中学校は町立なのに（保育園は私立ですが）、そこをうたわずなぜ西和賀高校なのか、違和感があるという声が上がっています。今後小中一貫校を始める、沢内方面は同一エリアに保育所・学童も整備する、保育留学も含め移住者の獲得もしていこうという事業について、今注目が集まっている西和賀高校以上に魅力化していこうという計画であってほしい。また、この事業を日々の保育・教育を進めながら取り組んでいる町民を、柱にきちんと明記することで励ましてください。</p> <p>④重点戦略2、目標2「人材育成」という言葉は、企業などが必要な技術や知識をもった人材を育てるといふ時に使う言葉であると思います。教育は一人一人が豊かに暮らしていくためにあるもので、人材育成の道具になってはいけません。「人を育てる」「豊かな人間性を育てる」という言葉を使ってほしいです。</p>	<p>②重点戦略については、34頁から重点戦略の考え方、展開、目的・ねらい、主な取組を記載しており、その中で農林事業者との連携や商工業、観光業との連携等、分野横断的に取組を進めることとしております。この頁（見開きの図解）に関しては、重点戦略に関わる具体の産業全てを記載するものではなく、このような表現としておりますことを御理解願います。</p> <p>③町立の小中学校、保育の現場が町の教育の土台であることは言うまでもありません。御指摘のとおり、現在進めている小中一貫校の整備や、沢内エリアでの保育・学童の一体的な整備は、現状の課題を克服し、子どもたちにとって、より良い学びを受けられる重要な取組です。西和賀高校の魅力化は、町全体の教育環境を、さらにより良くするものであり、高校が存続し、魅力的な教育を行うことは、小中学校の子どもたちにとっての「地元で学ぶ選択肢」を守ることとなります。前期基本計画の5年間においては、西和賀高校を核として、学校・地域・行政が一体となった「高校魅力化」を推進し、町の定住・移住を支える重要事業として、重点戦略のひとつと位置づけていることと、「学びが拓く」は西和賀高校だけを指しているものではないことを御理解願います。</p> <p>④重点戦略2、基本目標2で「人材育成」という言葉を用いた意図は、教育を通じて育まれた豊かな人間性が、実際の社会の中で「誰かの役に立つ力」や「地域を支える力」などの生きる力を育むことを応援したいという意図で使用したもので、決して人を道具として扱うものではありません。教育が地域の活力（人材）へとつながる好循環、地域に貢献したいという気持ちを育んでいくことも大きな教育のひとつだという認識から「人材育成」を用いていることを御理解願います。</p>	C
2	見開き頁ほか3つの重点戦略 ・エンジン	<p>基本構想審議会において、委員から「3つの重点戦略」という言葉へ「誰と戦さしているんだろう」との違和感が示されたが、私も同意見である。</p> <p>この「戦略」と同様の言葉として「3つのエンジン」が散見されるが、この言葉を統一的に「3つの原動力」（本文中には「駆動力」という言葉も使われているが、これも候補に含めて）としてはどうか？</p> <p>何に向けての原動力かという点、総合計画の最も大きな目標である“まちの将来像”「豊かな自然と学びが拓く笑顔行き交うにぎわいのまち」にむけての原（駆）動力を掲げることになる。</p> <p>あるいはもっと平易に「重点的な3つの取組み」「最も大事な3つの取組み」なども考えられる。</p>	<p>今回策定する総合計画は、これまで個別に策定していた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体的な計画として統合することから、「重点戦略」という表現を用いております。また、地方創生において「総合戦略」という言葉が用いられてきたことと、昨年来「戦略」という表現を用いてきたことから、「戦略」という言葉を用いることとしました。「駆動力」と「エンジン」についても変えずに用いることとしましたので御理解願います。</p>	C
3	見開き頁他 3つの重点戦略の2 「西和賀高校魅力化による人材育成」	<p>基本構想審議会ではまた、委員から「人を育てるにあたり（大切なことは）小学校中学校、生涯学習とか、西和賀高校だけでは無いのではないかと。一気に西和賀高校と言ってしまうと、学びは西和賀高校だけなのかと誤解されなければいいなと。また“教育が受けられる”という言葉を使うと受動的になってしまう。学ぶという、能</p>	<p>町立の小中学校、保育の現場が町の教育の土台であることは言うまでもありません。御指摘のとおり、現在進めている小中一貫校の整備や、沢内エリアでの保育・学童の一体的な整備は、現状の課題を克服し、子どもたちにとって、より良い学びを受けられる重要な取組です。西和賀高校の魅力化は、町全体の教育環境を、さらにより良く</p>	C

		<p>動的な向き合い方が大切ではないか。」といった発言があり、この発言にも大いに共感するものである。</p> <p>西和賀町のこれからの教育振興にむけて、西和賀高校魅力化は大きな成果であると同時にマイル・ストーンであり、この実績を維持し発展させていく視点から総合計画を組み立てていかなければならない。</p> <p>町が今まさに取り組んでいる保育、小・中学校の一貫教育において、町がこれまで培ってきた少人数教育実践の強みと成果を生かし、教育移住までつなげるという具体的な道筋を表すことが重要だと考える。</p> <p>「西和賀高校魅力化の成果をさらに高め」など、高校についてはサブタイトルに抑える。</p> <p>メインのタイトルには、キーワードとして「生きる力」や「ともに育み 共に育つ」などを織り込むと、教育を受動的に受けるのではなく、より能動的に自ら学び・自ら考えるヒトを育む西和賀町の教育姿勢がアピールできると考える。</p> <p>例えば「未来を担う子供たちの 生きる力をともに 育み 共に育つ」などフレーズが考えられる。</p>	<p>するものであり、高校が存続し、魅力的な教育を行うことは、小中学校の子どもたちにとっての「地元で学ぶ選択肢」を守ることになります。本町における西和賀高校の存在は、将来のまちづくりにとって欠くことができない重要な社会基盤であり、高校の魅力化は地域社会の持続可能性を高める地方創生における中核的な役割であり、あえてこの前期基本計画5年間の重点戦略として「西和賀高校の魅力化による人材育成」を位置づけ、分野横断的かつ重点的に取り組んで行こうとするものです。「学び」は西和賀高校だけを指しているものではないことを御理解願います。</p> <p>また、基本構想審議会で指摘のあった受動的な表現の点については、「魅力的な教育環境を築き、子育て世帯が選びたい地域を目指す」という能動的な表現にしたところ。</p>	
4	<p>2 頁</p> <p>■ 序説</p> <p>第1章 計画策定にあたって</p> <p>2 計画策定の基本的な考え方</p>	<p>町の最高規範である「まちづくり基本条例」の柱である「協働」については14か所ほどの記載があるが、「協働」「助け合い」のあり方について序説の早い段階で示すべきではないか。</p> <p>(素案の中で「協働」が最初に記載されているのは30ページ)</p> <p>2 計画策定の基本的な考え方 (3) 町民一人ひとりが主役となるまちづくり</p> <p>まちづくりの主役は町民一人ひとりです。…に続く文章の中で、「まちづくり基本条例」における“協働”の考え方、その骨格である助け合いの姿を、今後のコミュニティのあり方として、自助・互助・共助・公助の概念を示し、町は公助に加え、町民の足元にある互助の部分、「協働」の視点から支援していくことを明記してはどうか。</p>	<p>この計画策定の基本的な考え方として、今回は「町民一人ひとりが主役となるまちづくり」の視点を重視していることから、このような表現としておりますことを御理解願います。</p>	C
5	<p>4 頁</p> <p>(2) まちの沿革</p>	<p>沢内の説明の中に「農業を基幹産業として」という言葉を入れてほしいです。沢内の歴史と文化を語るうえで取りこぼせないものだと思います。</p>	<p>次のとおり修正を加えます。</p> <p>【修正前】「・・・旧沢内村は、「生命尊重」の理念のもと、乳児死亡率ゼロの達成や深澤晟雄村長による老人医療費無料化など、全国に先駆けた保健医療福祉の取組を行ってきました。・・・」</p> <p>【修正後】「・・・旧沢内村は、「生命尊重」の理念のもと、全国に先駆けた保健医療福祉の取組や農業を基幹産業としたまちづくりを行ってきました。・・・」</p>	A
6	<p>35 頁</p> <p>重点戦略3</p>	<p>基本目標において、「ユキノチカラ」プロジェクトを単なる商品プロジェクト</p> <p>ユキノチカラプロジェクトについては、商品づくりだけでなく、ふるさと納税や西和賀高校との魅力発見ラボ等々の各種事業に既に取り組んでいることを計画の各所に記載されており、「単なる商品づくり」とするのはいかがでしょう。</p>	<p>「ユキノチカラ」プロジェクトは商品づくりにとどまらず、ふるさと納税との連動や西和賀高校魅力発見ラボなど、産業・教育・交流分野に広がりを持って展開している取組です。</p> <p>本計画における「単なる商品開発の枠組みから」という表現は、これまでの取組を否定する趣旨ではなく、今後さらに分野横断的に発展させていく方向性を示したものでしたが、誤解を招く可能性があるため、表現を次のとおり修正いたします。</p> <p>『「ユキノチカラ」プロジェクトを、これまで展開してきた商品開発やふるさと納税、魅力発見ラボ等の取組を基盤に、』</p>	A
7	<p>50 頁～60 頁</p> <p>第2節 人材育成</p> <p>(1) 学校教育の充実</p> <p>(2) 生涯学習の推進</p> <p>(3) 文化・スポーツの振興</p>	<p>56 頁④に、拠点図書館の整備が必要とあります。読書は豊かな人間性の形成に有用ですし、それだけでも大いに意義のあることですが、現在の町の図書機能はその域を出ません。ほかにも地域関連の資料をきちんとアーカイブし、調査研究・学習にあたって情報を得られるよう寄与するとか、情報の大海にあって、そのリテラシーを支援できるとか、図書機能の掌る範囲は案外大きいものと拝察します。また、ひと昔前の図書館のイメージとは違い、集客に向け積極的にイベントや展示等を企画したり、多</p>	<p>町としては、読書推進のために図書まつりや読書ボランティアによる読み聞かせ、ビブリオバトルといったイベントも開催しました。また、広く読書の楽しさを分かってもらえるよう「古文書を読む会」を共催しています。これに加え、気軽に図書室を利用してもらうため、喫茶コーナーを設置する取組も行っています。</p> <p>他にも、図書室まで来ることが困難な方や時間のない方にも図書に触れていただくため、町内30か所を1か月に2回程度巡回し、読書活動の推進を図っているところです。</p>	D

		<p>角的な活動の拠点となっております。工夫次第では文化創造館の催しにも匹敵する賑わいを創出する施設となり得るのではないのでしょうか。</p> <p>専任の職員を配置し、図書・資料を扱う専門の活動を推進していく新たな機構が要ると思います。小・中一貫校が出来れば、9年間の読書環境、情報リテラシーを導く存在が不可欠となるのではないのでしょうか。図書機能のハブを新設し、学校教育、地域文化保護、生涯学習等、多岐に亘ってそれらをカバーしていくべきだと思われま。冒頭の案に賛成致します。</p>	<p>現在進めている小中一貫校においては、図書室の充実と地域への開放もできるよう図書館司書の配置を検討しているところです。</p> <p>ご指摘のように、まだまだ十分とは言えない現状ですが、私たちも課題意識は持っているところですので、提案事項については町の政策の一つとして検討を重ねてまいります。</p>	
8	<p>74 頁 (1) 地域コミュニティの維持・活性化</p>	<p>74 頁に、「(1) 地域コミュニティの維持・活性化」の項目があります。</p> <p>地域コミュニティに対する町の関わり方について、計画ではどのような方針で進めようとしているのでしょうか。</p> <p>現在、町内の地域それぞれに、自治会とか地域づくり組織とか、公民館運営委員会といった自治的な組織があります。少子高齢化、人口減少が進むことが明かな中で、町は、どのような方向で地域を導こうとしているのか。計画にどのように盛り込んでいるのかを教えてください。</p> <p>大きくは、行政としての町の関りを強化して支える方向と、町はあくまでも支援に回って地域の自立を促すための施策を進めるなどの方向があると思いますが、どのようにしようと考えているのでしょうか。</p> <p>地域もいろいろあるので、自分たちでできる地域は自分たちでやってもらって、できないところには支援するというのでは、計画が示すメッセージとして不十分でないかと思ひます。</p> <p>二者択一ではないにしても、今後10年の町の方針を示すことで、地域もその方向で、地域づくり計画を作るなど、今後どうしていくのかを考えるのに必要になるのではないのでしょうか。</p>	<p>町は協働のまちづくりを推進し、自主的かつ活力ある地域づくりの進展を図ることを目的として、地域づくり組織条例に基づき協定を締結し、地域づくり組織が取り組む課題解決等に対し、必要な支援を行うこととしており、地域づくり組織が主体的な取り組みに活用できるよう、地域づくり組織一括交付金による財政的な支援、活動拠点となる地区集会所の貸し出し等の支援を行っているところです。</p> <p>町がどのような方向で地域と関わっているかという点については、地域に住む住民が自らが住んでいる地域をどのような地域にしていきたいかという将来ビジョンが大切であることから、集落支援員を中心としながら地域づくり計画の策定に向けた話し合いについて支援を行っているところです。</p> <p>地域づくり計画の策定にあたっては、町の方針以外にも社会情勢など周辺環境を踏まえた計画策定は大切となりますので、今回策定を進めている第3次西和賀町総合計画は地域づくり計画を策定するうえでも参考となるものと思ひます。</p>	C
9	<p>74 頁 ①持続可能な地域運営体制の整備</p>	<p>74 頁「①持続可能な地域運営体制の整備」の「取組の内容」では、「一括交付金による支援」、「集落支援員による地域づくり計画の作成支援」「北部地域の活性化拠点整備事業への支援」に取組むとしています。</p> <p>それらの取組が、どう「持続可能な地域運営体制の整備」に繋がるのか、今までの取組が、どう見直されて進化していくのか、もう少し詳しく分かりやすければいいと思ひます。</p>	<p>持続可能な地域運営については、現在ある諸課題への対応と中長期的に地域をどのように運営していくかという視点が大切であることから、一括交付金による地域活動の推進と地域の将来ビジョンとなる地域づくり計画の策定支援について位置付けているものとなります。</p> <p>北部地域の活性化拠点施設整備事業支援については、これまで住民有志の団体である北部活性化推進委員会が取り組んできた話し合いや活動に基づき、地域経済の活性化と地域課題の解決を目指した拠点施設整備事業について町が支援を行おうとするものとなります。</p>	C
10	<p>74 頁 ②集落支援員による地域コミュニティ支援</p>	<p>74 頁「②集落支援員による地域コミュニティ支援」の「取組の内容」の新たな地域専属の集落支援員についてですが、「地域独自の課題（解決）を集落支援員の業務として取り扱い、地域課題の解決をめざす」と書いています。中山間直接支払組合やサロン活動の運営などを担うとしておりますが、新たな集落支援員は、支援に留まらず、地域活動や関係業務の実施主体にもなるものということを示した方がいいのではないのでしょうか。</p>	<p>人口減少により地域づくり組織では担い手確保に苦慮している状況となっていることから、そうした課題にも対応できるように、地域に委託する集落支援員制度の設計を進めているところです。</p> <p>集落支援員については国の制度であることから、国の基準を満たす活動であることが前提となるものです。集落点検や集落のあり方についての話し合いに基づき、集落の維持・活性化に向けた取り組みや取り組み主体となる組織のサポートが業務となるものです。そうしたことから、地域の中における合意形成が大切であるものと捉えています。</p>	C
11	<p>75 頁 ③関係人口の拡大</p>	<p>75 頁「③関係人口の拡大」の「取組の内容」の3行目に「事業所における複業」とあります。「複業」という言葉は、複数の仕事ということでしょうか、「副業」との違いなど説明を入れてはどうでしょうか。</p>	<p>一般的に副業はメインの仕事を持ちながら別の仕事をして収入を得る働き方、複業は複数の仕事をしている働き方と区別されています。</p> <p>75 頁に上記用語解説を加えます。</p>	A
12	<p>75 頁 ③関係人口の拡大</p>	<p>75 頁「③関係人口の拡大」は、町の今後にとって非常に重要なことだと思ひます。今回の計画では、前の計画と同様「(1) 地域コミュニティの維持・活性化」の項目で位置づけられていますが、更に格上げして打ち出した方がいいのではないのでしょうか。地域産品の購入や事業所における複業、複合拠点施設を核にした加工体験や「ユ</p>	<p>町では多様なかわりをまちづくりに生かすことを目的に、第2期西和賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に関係人口を重点的施策と基本目標に位置付け、地域ブランドや観光振興、ふるさと納税等の取り組みを進めてきたところです。</p>	B

		キノチカラ」関連事業、エコツーリズムなどが取り上げられていますので、もっと踏み込んで「産業の振興」的な観点から打ち出した方がいいのではないかと思います。	第3次西和賀町総合計画においても、この流れを受け、関係人口については本項目の他にも、町の重点戦略3「ユキノチカラ」地域価値創造プラットフォーム形成として位置付けており、ファン（関係人口）の拡大として戦略的な情報発信とブランドの世界観への共感を通じ、西和賀を応援してくれる「ファン」を増やし、継続的なかわりを築くなどの取組を進めることとしています。	
13	84 頁 ①除雪体制の維持・確保 81 頁 ⑤住環境の整備	84 頁、「(4)安全・安心な暮らしの確保」の「①除雪体制の維持・確保」についてですが、ここでは町道除雪のことを中心に記載されています。町道除雪は重要ですが、「高齢者の住む家屋等への除雪支援」も、それに並ぶ重要課題です。現状のスノーバスターズは話題性もあり、素晴らしい活動ですが、ボランティア活動です。町の施策としてどうするのかを入れてもらいたいと思います。 西和賀町において「安全・安心な暮らしを確保」するためには、冬期間の除雪について、誰もが安心できるようにすることが必要です。 81 頁の「⑤住環境の整備」の「生活支援ハウス」の継続を超えた格段の充実も含めて、冬期間の暮らしの安全面から充実した記載を望みます。	74 頁「①持続可能な地域運営体制の整備」に次の記述を加えます。 ■現状と課題 町では、冬期間における安心・安全な地域生活の維持を図るため、地域づくり組織における地域内の高齢者世帯等の除排雪活動の推進に向け、除雪機の購入経費並びに除雪機の維持・管理及び除排雪活動に要する経費に対し支援を行ってきました。また、町内に居住する高齢者世帯等に対し、雪下ろし費用の一部助成を行い費用負担の軽減に向けた取組を進めてきました。 高齢化の進展に伴い、高齢者世帯等の除排雪における要支援世帯が増加しており、豪雪に起因する死傷事故の発生や雪下ろし費用等の費用負担の増が懸念されることから、行政の支援に加え、地域コミュニティによる互助や共助の取組が喫緊の課題となっています。 ■取組の内容 地域づくり組織において、担い手不足の状況が顕著に表れており、地域内における除排雪活動の維持が困難となる状況が想定されることから、除排雪活動に対する支援を継続するとともに、活動体制の維持に向けた協議・検討を進めます。 また、高齢者世帯等の雪下ろし費用の一部助成を継続し、負担軽減に努めます。	A
14	100 頁 (5) 第三セクターの経営健全化	第三セクターの目標数値に決算の公表は当然のことであり、目標数値として年1回とするのは妥当でしょうか。	第三セクターの経営状況の定期的なチェックと透明性の確保、情報公開は、基本的ではありますが、経営健全化の検討を行ううえで重要であり、成果指標としていることを御理解願います。	C
15	住民説明会に対する意見	①町民懇談会の前に資料を全戸配布していただいたことを評価します。その場で意見を出してほしいといわれても難しいと思うので、今後も続けてほしいと思います。 ②町長が今回の総合計画を策定するにあたって「ゼロベースで」「住民の意見を取り入れる」としていましたが、進め方に関しては結局当局の意見を通す形で進められていることはとても残念です。前回の住民懇談会も三本柱以外のところの意見は出せない雰囲気でしたし、今回も住民が求める様々なことについて「それは後段の具体化した計画の中に書いてある」というばかりで柱のところには手を加えようとしないうえと取れました。こういうやり方をしていると住民が本当に何を求めているのかが分からず、当局も日々町政を守り進めることに尽力しているのに、乖離が生まれることが残念でなりません。 ③前回の総合計画は表現が広すぎて何を重点にしているのかがいまいちわからないという意見を一昨年住民懇談会の際に出したと思います。今回は具体的な事業が見えやすいという点では評価します。	計画策定の過程に関するご意見と捉えました。住民説明会の持ち方については、資料の事前配布や会の進め方、意見の吸い上げ方法、わかりやすい資料の提供等々、引き続き研究し取り組んでまいります。	D
16		教育関係については、住民説明会において「人材」という言葉の使い方にも意見が出された。 「人材」という言葉は、これまで過去の総合基本計画でも多用されているが「教育」の本質を考えると、また“志を持って子供を育てるために西和賀に移住しよう”と考える人たちに魅力的な西和賀町の教育の在り方を考えるとき、「人材」という言葉を教育の目標の中心に掲げることは相応しくないと考える。 「材」としてではなく「ヒト」をいかに育むかにスポットをあてた総合計画として組み直していただきたい。	教育関係について「人材育成」という言葉を用いた意図は、教育を通じて育まれた豊かな人間性が、実際の社会の中で「誰かの役に立つ力」や「地域を支える力」などの生きる力を育むことを応援したいという意図で使用したもので、決して人を道具として扱うものではありません。教育が地域の活力（人材）へとつながる好循環、地域に貢献したいという気持ちを育んでいくことも大きな教育のひとつだという認識から「人材育成」を用いていることを御理解願います。	C